

それぞれがやりたいことを！ それぞれがいて輝けるように！

京都〈ゆうゆうの里〉 中西一正様(69歳)・中平一二三様(67歳) 令和3年3月 夫婦入居

スロバキアで芽生えた音楽の夢

一正様 恩師の紹介で一二三さんと結婚しました。それから20年が過ぎて、大学の経営学部在職当時、在外研究のためにスロバキアに一年間滞在することになりました。

一二三様 夫はそれまでも、各地に在外研究で滞在しましたが、スロバキアの赴任が決まった後、夜中に救急車の音を聞いて、「今度の滞在では救急の時に駆け付けられない」と不安が募りました。同時に、音楽好きだから私も外国に住んでみたいとの思いが湧いてきました。52歳の時です。教え子達の前で私が歌を歌ってお別れした



この2月に開催される一二三様のリサイタル

時は、皆が大号泣でした。

一正様 そうして、四六時中一緒に時間は過ごすことになったので、私はタバコをやめました。一二三さんが嫌がる事は絶対にしないと決めたからです。現地では色んな出会いがありました。

一二三様 そこにはほとんどに古き良きヨーロッパの田舎が残っていました。住まいの近くに芸術基礎学校と言うのがあり、ここでは放課後、子どもたちに音楽や創作活動を教えていました。子供の頃から歌が好きで美空ひばりの歌をみかん箱の上で歌っておひねりをもらったりしていた私は、そこでピアノと歌を習いました。とても安くて一ヶ月300円位でした。

日本は音楽に対するサポートが貧弱と実感

一二三様 スロバキアで音楽とともに暮らしてきた私は、音楽の勉強をしないまま死ぬないとの決意を固めて同志社女子大の音楽学科を受験しました。55歳の音大生です。背中を押してくれた彼にはとても感謝しています。

一正様 自分もやりたいように

やってきたが、彼女から小言を言われた記憶はありません。

一二三様 音楽家のサポートを何かしたいと考えていたときに、売りに出た喫茶店を彼が「買おう！」と言ってくれました。若き音楽家たちの拠点にと願いを込めて「カフェ&ミュージック・タトラ」と名付けました。タトラは二人の思い出の地、スロバキアの連山の名前です。はじめは母校の音楽関係の方に、無料で「タトラ」を練習やコンサートに使ってもらっていたのですが、今ではより広く多くの音楽家に利用してもらっています。クリスマスコンサートなども開催しています。コロナ禍で月例のコンサートができない時もありましたが、やっと再開して64回目になりました。

入居して得た安心と新たな生きがい

一正様 僕の二度のがん手術を契機に、人生の終焉の迎え方を話し合うようになりました。

一二三様 私は、自由が束縛されるイメージを持っていたので、施設入居には乗り気ではありません

でした。でもこちらの施設を見学してイメージが変わりました。

一正様 ここに決めた理由は、随所にケアの思想が反映しているし、何より働いて

いる職員のかた一人ひとりに、ホスピタリティーが染み込んでいると感じたのです。

一二三様 彼が定年退職してからは、引きこもりみたいなのに、本を読んでいたら一日経ってしまったと言う生活を心配しました。入居して一番よかったのは、彼が外に出て歩くようになったことです。

一正様 ウォーキングはいまや習慣に。ハナズオウなど今まで知らなかった樹木を知るのも楽しみ。静謐な生活を心がけて自分なりの死生観を見極め、健康を維持してゆっくりと老化するよう日々心がけていきたい。

一二三様 私は音楽活動を続けていきたい。ケア棟に行つて今日はみんなで楽しく歌いましょうというようなことをしたい。音楽は体に良いです。今は二月に京都の府立府民ホールで行われるリサイタルに向けて頑張っています。

